

平成 23 年度学術情報委員会活動経過報告

I. 会議等の開催状況

- ・第 1 回学術情報委員会（平成 23 年 8 月 1 日開催）
 1. 今年度の活動方針及び重点事項について
 - (1) 電子環境下における新たな学術情報システムに向けた検討について
 - (2) 国際 ILL (GIF (Global ILL Framework)) について
 - (3) 学術情報の利用促進と保存
 2. 小委員会及びプロジェクトチームの設置について
 3. 電子環境下における今後の学術情報システムについて（中間報告）について
 4. 国立大学図書館協会シンポジウム「電子書籍と大学図書館」について
- ・第 2 回学術情報委員会（平成 23 年 10 月 28 日開催）
 1. 電子環境下の学術情報システムの検討について
 2. 国立大学図書館協会シンポジウム「電子ブックと大学図書館」の開催について
 3. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム委員と課題について

II. 活動内容

1. 学術情報委員会の活動について

今年度は、①「電子環境下における新たな学術情報システムの検討」、②「国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))」、③「学術情報の利用促進と保存」の 3 点を中心に取り組むこととした。

電子環境下における新たな学術情報システムの検討に関しては、学術情報システム検討小委員会を設置し、報告書『電子環境下における今後の学術情報システムに向けて』を 11 月にとりまとめた。

国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))に関しては、「GIF プロジェクトチーム」を設置し、GIF プロジェクトの運用体制の再整備と同プロジェクトの業務的位置づけの確認と担当者の継続的な業務スキルの向上を図る。

学術情報の利用促進の保存に関しては、「学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム」を設置し、学術情報を発見し利用を促進するためのツールの導入、電子情報資源の保存を担保するための仕組み等について検討を行うこととした。

なお、学術情報委員会が中心となって平成 23 年度国立大学図書館協会シンポジウム「電子書籍と大学図書館」を 11 月 25 日に京都大学で開催した。

2. 学術情報システム小委員会の活動について

9 月 1 日と 9 月 16 日に小委員会を開催し、10 月 28 日に開催された平成 23 年度第 2 回委員会との合同会議の審議を踏まえ、報告書『電子環境下における今後の学術情報システムに向けて』をとりまとめ、学術情報委員会に提出した。

3. GIFプロジェクトチームの活動について

1) 今年度活動

- ・ GIFプロジェクトの円滑な運用を進めるためのサポートを行っている。

2) GIFプロジェクト活動報告

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

① GIFプロジェクト参加状況

参加機関数は、平成 23 年 9 月 30 日現在、日本側 159、米国側 83 であり、平成 23 年 4 月以降、日本側に変動なく、米国側で 2 館増加の状況である。

② 現物貸借サービス参加状況

参加機関数は、上記同日現在、日本側 86、北米側 46 であり、平成 23 年 4 月以降、日本側で 1 館の減少、北米側は変動なしの状況である。

③ 日米 ILL/DD 実施状況

平成 23 年 4 月 1 日～9 月 30 日までの日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年に比べ、依頼件数で 147 件増、受付件数で 18 件増、縮小傾向が止まった。日本側受付分の謝絶率は 65.7%である。(56.8% (17 年度) →66.7% (18 年度) →66.3% (19 年度) →73.0% (20 年度) →67.5% (21 年度) →67.3% (22 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 35.7%である。(45.1% (17 年度) →51.4% (18 年度) →58.6% (19 年度) →45.2% (20 年度) →47.6% (21 年度) →45.4% (22 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 23 年 4 月～9 月)

| | 依頼件数 | | | | 受付件数 | | | |
|------|------|-----|-----|-------|------|-----|-----|-----|
| | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 |
| 文献複写 | 533 | 279 | 0 | 812 | 230 | 307 | 0 | 537 |
| 現物貸借 | 116 | 81 | 0 | 197 | 106 | 336 | 0 | 442 |
| 合計 | 649 | 360 | 0 | 1,009 | 336 | 643 | 0 | 979 |

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

① 参加状況

参加機関数は、平成 23 年 9 月 30 日現在、日本側 115、韓国側 296 館となっている。平成 23 年 4 月以降、日本側では変動なし、韓国側で 10 館の増加となっている。

② 日韓 ILL/DD 実施状況

日韓 ILL/DD は平成 19 年 4 月から ISO ILL システム間リンクによる本格運用を開始した。平成 23 年度の 4 月 1 日～9 月 30 日までの日韓 ILL/DD の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 18 件増、受付件数は 219 件増、依頼・受付とも増加傾向である。謝絶率は依頼分が 0.6%で昨年度 (0.8%) 同様低い水準にある。受付分においては 29.8%で昨年度 (30.2%) と同程度となっている。一貫して、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成23年4月～9月）

| | 依頼件数 | | | | 受付件数 | | | |
|------|------|----|-----|----|-------|-----|-----|-------|
| | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 |
| 文献複写 | 30 | 2 | 0 | 32 | 1,106 | 469 | 0 | 1,575 |

(3) 今後の課題

次の課題について検討を始めている。

①GIFプロジェクトの運用体制の再整備

②GIFプロジェクトにおける業務的位置づけの確認と担当者の継続的な業務スキルの向上

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

電子ジャーナルや電子書籍等の電子情報資源の急速な普及に伴い、従来のツールでは冊子体と電子情報資源を合わせたシームレスな探索に対応できなくなっている。また、電子情報資源の保存についてもその主体をどこにおくか等検討すべき課題が多い。

これらの問題に対応するため、情報を発見し利用を促進するためのディスカバリーサービスや統合検索等の導入や電子情報資源の保存を担保するためのアーカイブについて PorticoやCLOCKSSなどを含めて国内外の調査をメンバーの増強を図り、行う予定である。

III. 委員構成（平成23年10月1日現在）

1. 学術情報委員会

松浦 好治（名古屋大学附属図書館長）（委員長）

新田 孝彦（北海道大学附属図書館長）

吉田 孝（北見工業大学附属図書館長）

関川 雅彦（筑波大学附属図書館副館長）

貝田 辰雄（一橋大学学術・図書部長）

井上 修（新潟大学学術情報部長）

竹内 比呂也（千葉大学附属図書館長）

木村 晴茂（岐阜大学学術国際部長）

加藤 信哉（名古屋大学附属図書館事務部長）

栃谷 泰文（京都大学附属図書館事務部長）

相原 雪乃（京都大学附属図書館情報サービス課長）

鈴木 秀樹（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長）

（事務）

高木 昭（名古屋大学附属図書館情報管理課長）

黒柳 裕子（名古屋大学附属図書館情報管理課課長補佐）

2. 学術情報システム検討小委員会

- 栃谷 泰文 (京都大学附属図書館事務部長) (委員長)
熊渕 智行 (筑波大学附属図書館情報サービス課長)
高橋 努 (東京大学附属図書館情報管理課長)
加藤 さつき (東京外国語大学学術情報課資料サービス係長)
小野 亘 (一橋大学学術・図書部学術情報課主査)
(オブザーバ)
鈴木 秀樹 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)

3. GIF プロジェクトチーム

- 貝田 辰雄 (一橋大学学術・図書部長) (主査)
井上 修 (新潟大学学術情報部長)
相原 雪乃 (京都大学附属図書館情報サービス課長)

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

- 関川 雅彦 (筑波大学附属図書館副館長)
竹内 比呂也 (千葉大学附属図書館長)
加藤 信哉 (名古屋大学附属図書館事務部長)